

I 研修内容

「課題の明確化と自立活動の方向性の共有」

高等部 I 課程の生徒は2名であり、自立活動は週4時間(担任2時間、教科担当2名が各1時間)の体制で実施している。今年度の自立活動における指導方針を検討するため、5月に担当者および前年度の担任で意見交換を行った。協議では、生徒一人ひとりの「できていること・長所」と「身に付けてほしいこと・課題」を付箋紙に記入し、ホワイトボードに貼りだしてグルーピングを行った(図1)。これにより、生徒の実態を客観的に把握し、課題を整理することができた。その結果、「体調管理など身体に関すること」「パソコンや iPad の基本的な技能を身に付けること」、「コミュニケーションに関すること」の3つを自立活動で取り組む課題として設定し、担当者間で分担して指導にあたることとした。

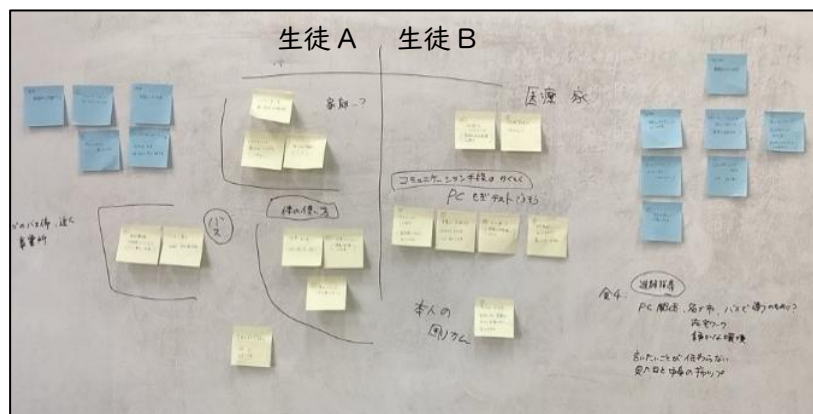


図 1 付箋とホワイトボードを用いて整理した生徒の長所と課題

II 研究成果

「役割分担による指導の効率化」

年度当初に自立活動の担当者全員で生徒の実態や課題を共有したことで、取り組むべき方向性が明確になり、共通認識のもとで指導に臨むことができた。また、課題ごとに担当者を決めたことで、各担当者が指導する内容が絞られ、スムーズに指導ができた。

III 研究課題(今後の取組)

「担当者間における情報共有の工夫」

高等部 I 課程は体育以外の授業を授業担当者1名で担当しており、気軽に相談や情報共有ができる環境ではない。そのような状況であるにも関わらず、他教室の生徒を主に受け持っている自活担当者もいるため、班別(教室別)の TT 会で話し合いの場を設けることができなかった。また、自立活動手順シートについては、身体面の指導(ストレッチや分離運動など)の際に大変参考になったが、担当者間では十分に活用できなかった。今後は、Teams の活用(チャットグループの作成など)や TT 会の運用方法の工夫に加えて、自立活動シートを適宜更新し担当者間で共有する取り組みを進めることで、指導における連携をより一層強化し、情報共有の充実を図ることが課題である。